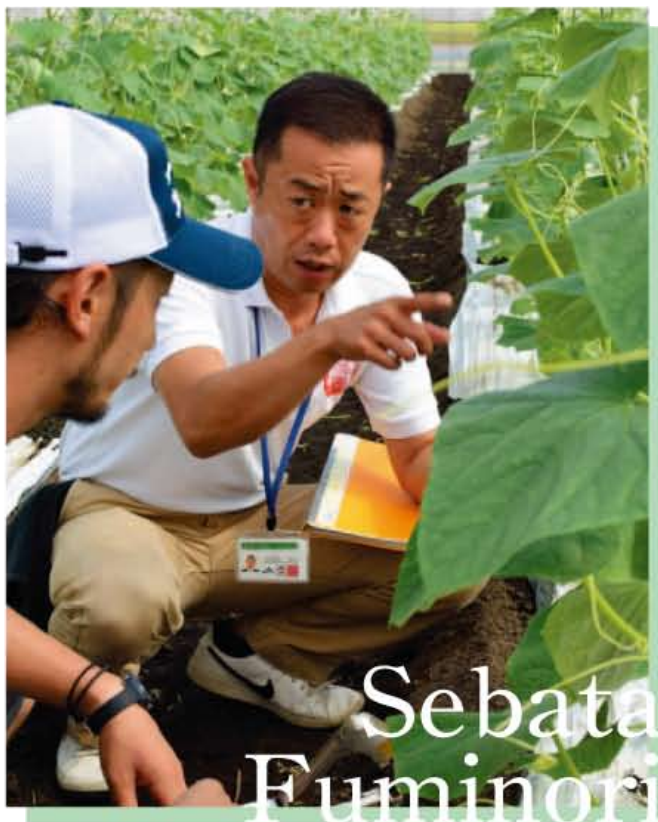


下館支店

瀬端 文典さん



JAは今年4月から、農業者所得の増大に向けた取り組みとして、営農指導や青果物・米の販売業務のブローを長期間にわたり育成し、営農指導業務の体制強化を図る「専門業務従事者」を配置しました。
下館支店営農経済課に所属する瀬端文典さんは、下館地区管内で栽培される様々な農作物の営農指導を行っており、生産者が安心して農業経営ができる体制作りに努めています。
また、経験豊富な先輩として若手営農指導員の相談・指導役として後輩の育成にも取り組み、JA全体の営農指導員のレベルアップを図っています。

—担当する業務について教えてください—
私はJAに入組して18年間、営農経済業務に携わってきました。本店での勤務が長く、今回の定期人事異動で10年ぶりに下館支店に配属となりました。出身地ということもあり嬉しさが入り、玉ねぎ、加工レタス、花卉等があります。私を含めた4人の営農指導員が下館地区の生産部会を担当するほか、青色申告会や農業労災保

険特別加入組合、エコサインショップ等の事務局を務め、生産者の支援をしています。私はいくらを統括する立場で、下館地区の営農全般を担当しています。
—下館地区で栽培される農作物について教えてください—
下館地区で栽培されるイチゴ、キュウリ、花卉は、北つくばの統一部会になっています。統一部会のスケールメリットを活かし、出荷量、販売金額は県内トップクラスを誇ります。花卉の小菊は茨城県の銘柄産地、イチゴとキュウリ



生産者と規格の確認

は銘柄推進産地として指定されておりJA北つくばを代表する農産物です。統一部会ですので、各地区で栽培講習会や現地検討会、目揃え会などを数多く行い、品質の高水準化に取り組んでいます。
玉ねぎ部会は現在、54人の生産者が15^歳で栽培しています。近年の単価高を追い風に、サラリーマンが定年退職後、農業を始める「定年婦農者」が栽培品種として選ぶケースが増えてきており、毎年2〜3人新規就農者となっています。今年は7500万の販売高でしたが、来年は1億円を目指して生産者と共に頑張りたいです。

加工レタスは、冬場を使用していない水稲の育苗ハウスを活用しようと取り組みました。契約販売なので安定した手取りが確保できることから人気があり、生産者も増えてきています。
—「農業者所得の増大」に向けて、今後どのような取り組みが必要だと考えていますか—
農業者所得を増大させるには、「販売単価の向上、販売量の増大、コスト削減」が基本であり、その中でも販売力が重要であると考えています。
市場販売では、ニーズに対応した高品質化や高付加価値に努め実需者（量販店等）、消費者に選ばれる産地を目指すために、市場担当者や関係機関との連絡を密にして、どのような物（品質）を、どのような形態（規格）で、生産した



販路拡大のための消費宣伝活動

らよいかを検討していかねければなりません。また、市場価格や天候に左右されない安定した経営を行う為に契約販売にも力を入れ、加工業者や量販店の販路開拓、1次加工を施した出荷形態などに取り組み、有利販売に繋げる一方、流通コストの削減を図ることが所得の増大には不可欠だと思います。これらの取り組みを進めるのは、生産者と市場や消費者の架け橋となる私たちが営農指導員の役割だと認識しています。
—専門業務従事者としての意気込みを聞かせてください—

現在、農業者の高齢化、後継者不足、TPPや食料自給率の低下など農業問題が山積みしているなか、どのように産地を維持発展させ、活性化させるのが大きな課題です。各農家の経営状況やスタイルに合わせた経営分析や改善を図り、各関係機関と連携しながら、新技術や各補助事業の活用などをしていく必要があります。そのため知識や技術を習得して活かしていきたいと思っています。
また、私たち営農指導員は生産者宅や現場に出向くことが基本です。「生産者と顔を合わせ相談し合い、良い作物を共に作る」という当たり前の事をこれからも続けていきたいです。JAに入組して、職場の先輩方やたくさんの農家の皆さんに様々なことを教えていただきました。その教えは常に「現場」にありました。一番の勉強の場所である「現場」にできるだけ出向いて自分を高めていきたいと思ひますし、後輩たちにも出向く姿勢を伝えていきたいです。